

2 教科に関する調査結果

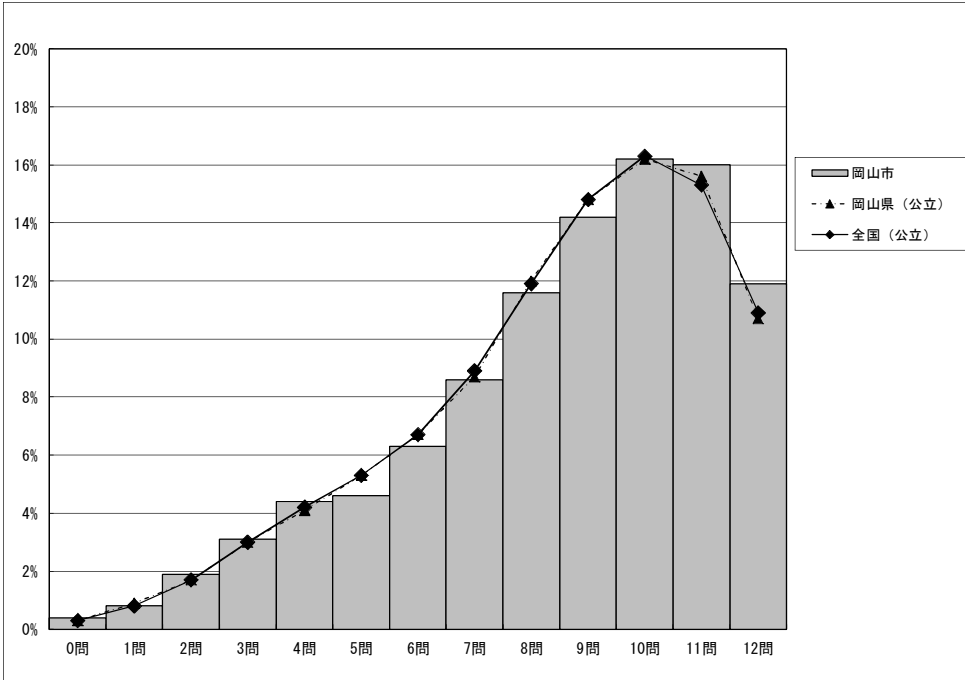


調査結果概況 [国語A：主として知識]
岡山市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
岡山市教育委員会	6,141	8.5 / 12	71	9.0	2.7
岡山県 (公立)	16,270	8.5 / 12	71	9.0	2.7
全国 (公立)	1,030,025	8.5 / 12	70.7	9.0	2.7

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合 (%)		
	岡山市	岡山県 (公立)	全国 (公立)	
12問	728	11.9	10.7	10.9
△ 11問	982	16.0	15.6	15.3
◇ 10問	995	16.2	16.2	16.3
◇ 9問	873	14.2	14.8	14.8
▽ 8問	715	11.6	12.0	11.9
▽ 7問	526	8.6	8.7	8.9
6問	387	6.3	6.7	6.7
5問	282	4.6	5.3	5.3
4問	271	4.4	4.1	4.2
3問	191	3.1	3.0	3.0
2問	119	1.9	1.7	1.7
1問	49	0.8	0.9	0.8
0問	23	0.4	0.3	0.3

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

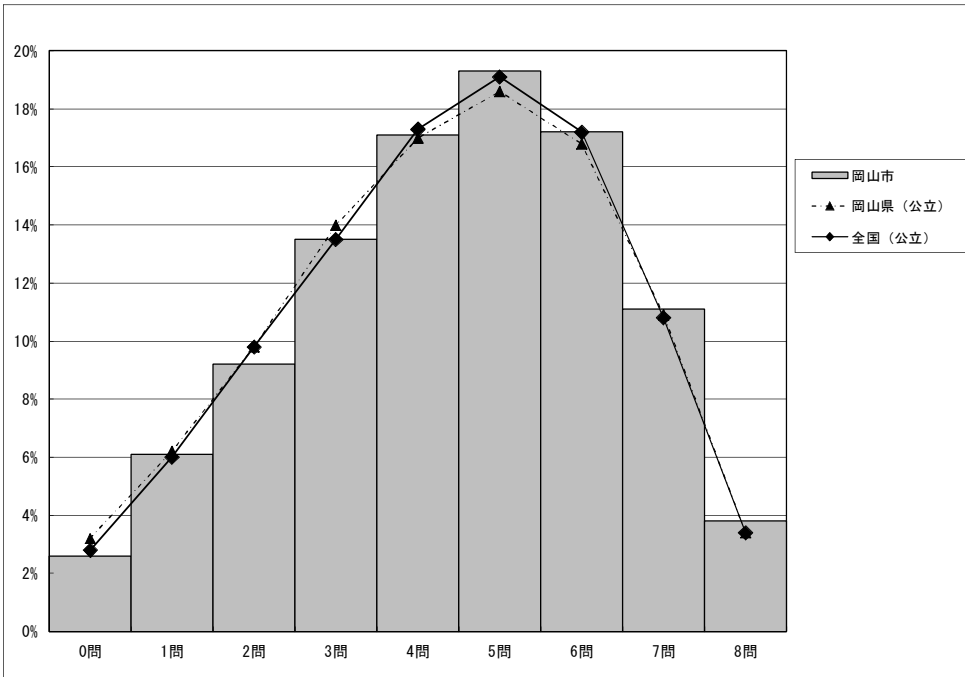
	岡山市	岡山県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	9.0問	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	7.0問

調査結果概況 [国語B：主として活用]
岡山市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
岡山市教育委員会	6,141	4.4 / 8	55	5.0	1.9
岡山県 (公立)	16,261	4.3 / 8	54	4.0	2.0
全国 (公立)	1,029,799	4.4 / 8	54.7	5.0	1.9

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合 (%)		
	岡山市	岡山県 (公立)	全国 (公立)	
8問	234	3.8	3.4	3.4
7問	684	11.1	10.9	10.8
△ 6問	1,055	17.2	16.8	17.2
◇ 5問	1,185	19.3	18.6	19.1
◇ 4問	1,053	17.1	17.0	17.3
▽ 3問	830	13.5	14.0	13.5
2問	562	9.2	9.8	9.8
1問	377	6.1	6.2	6.0
0問	161	2.6	3.2	2.8

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	岡山市	岡山県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	6.0問	6.0問	6.0問
◇ 第2四分位	5.0問	4.0問	5.0問
▽ 第1四分位	3.0問	3.0問	3.0問

平成30年度全国学力・学習状況調査
問題別調査結果 [国語A：主として知識]
 岡山市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

【偏差値】 平成29年度 50 → 平成30年 50
 (平成32年度目標値51以上)

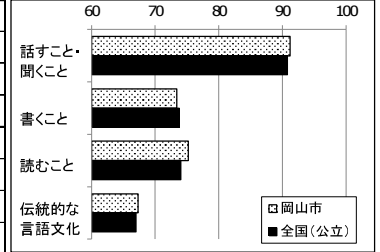
※岡山市教育振興基本計画における施策の成果指標

集計結果

対象児童数	岡山市教育委員会	全国(公立)
	6,141	1,030,025

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		市と国との正答率の差	
			岡山市	全国(公立)		
全体			12	71	70.7	-5.0 ▼ +5.0
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	91.2	90.8	0.4	
	書くこと	1	73.4	73.8	-0.4	
	読むこと	2	75.2	74.0	1.2	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	67.3	67.0	0.3	
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0				
	話す・聞く能力	1	91.2	90.8	0.4	
	書く能力	1	73.4	73.8	-0.4	
	読む能力	2	75.2	74.0	1.2	
	言語についての知識・理解・技能	8	67.3	67.0	0.3	
問題形式	選択式	11	74.3	73.9	0.4	
	短答式	1	36.9	35.5	1.4	
	記述式	0				

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		市と国との正答率の差	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山市教育委員会	全国(公立)		岡山市教育委員会
1	図書館への行き方の説明として適切なものを選択する	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	3・4イ						○		○			91.2	90.8	0.1	0.1	0.4
2	物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える	5・6イ						○		○			73.4	73.8	0.4	0.3	(0.4)
3	【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を捉える		3・4イ					○		○			74.2	73.9	0.2	0.2	0.3
4	『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える			5・6エ				○		○			76.1	74.0	0.4	0.3	2.1
5	【春休みの出来事の一部】の中で、----部と---部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く			3・4(1)イ(キ)						○	○		36.9	35.5	3.5	3.9	1.4
6	慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する(心を打たれる)	日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う			3・4(1)ア(イ)						○	○		90.6	90.4	1.7	1.4	0.2
7	【話を聞いている様子の一部】の「ア」, 「イ」に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する	相手や場面に応じて適切に敬語を使う			5・6(1)イ(ク)						○	○		57.3	56.0	3.1	2.7	1.3
8ア	文の中で漢字を使う(せい造)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(ア)						○	○		73.0	73.4	5.8	5.2	(0.4)
8イ	文の中で漢字を使う(せつ備)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(ア)						○	○		81.2	82.2	7.1	6.3	(1.0)
8ウ	文の中で漢字を使う(しょう毒)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(ア)						○	○		81.7	82.2	7.5	6.6	(0.5)
8エ	文の中で漢字を使う(かん理)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(ア)						○	○		65.0	65.0	8.5	7.4	0.0
8オ	文の中で漢字を使う(せつ極的)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6(1)ウ(ア)						○	○		52.9	51.4	9.0	7.7	1.5

無解答率 3.9 3.5

問題別調査結果 [国語B：主として活用]
岡山市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

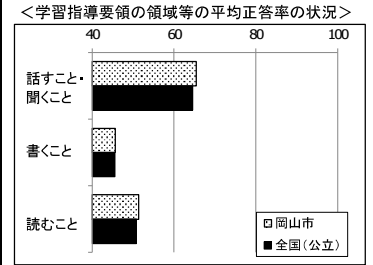
【偏差値】 平成29年度 51 → 平成30年 50
(平成32年度目標値51以上)

※岡山市教育振興基本計画における施策の成果指標

集計結果

対象児童数	岡山市教育委員会	全国(公立)
	6,141	1,029,799

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		市と国との正答率の差
			岡山市	全国(公立)	
全体					
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	65.4	64.6	0.8
	書くこと	5	45.6	45.6	0.0
	読むこと	2	51.4	50.8	0.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	33.2	33.2	0.0
	話す・聞く能力	3	65.4	64.6	0.8
	書く能力	5	45.6	45.6	0.0
	読む能力	2	51.4	50.8	0.6
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	5	68.4	67.6	0.8
	短答式	0			
	記述式	3	33.2	33.2	0.0



※一つの問題が複数の区分に該当する場合は、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		市と国との正答率の差	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	岡山市教育委員会	全国(公立)	岡山市教育委員会		全国(公立)
1一	【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する	話し合いの参加者として、質問の意図を捉える	5・6オ												83.5	82.5	0.5	0.4	1.0
1二	【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する	計画的に話し合うために、司会の役割について捉える	5・6オ												78.7	77.5	0.5	0.6	1.2
1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、[]を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	5・6エ	5・6ウ											34.1	33.8	5.6	6.2	0.3
2一	「かみかみあえ」についての【おすすめする文章】の最初の部分に[]のように書いた理由として適切なものを選択する	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える	5・6イ												57.3	57.6	1.9	1.7	(0.3)
2二	【おすすめする文章】の[]に、むしろ歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	5・6ウ												13.7	13.5	2.4	2.7	0.2
2三	【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫として適切なものを選択する	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える	5・6ウ												71.5	70.8	3.3	3.4	0.7
3一	山下さんは、どのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択する	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む	5・6イ												51.2	49.4	3.7	3.2	1.8
3二	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】[]最も心がひかれた一文とその理由の文章の[]に入る内容を書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく	5・6ウ	5・6ウ											51.6	52.3	10.6	11.9	(0.7)

無解答率 3.6 3.8

【調査結果から】

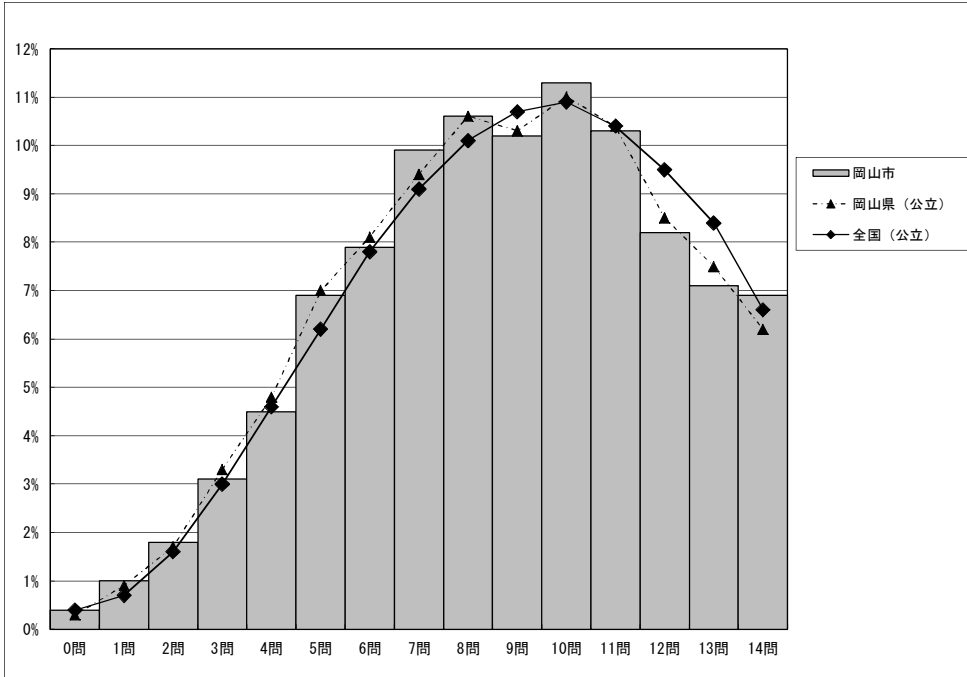
- ◆ 「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」設問や「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」設問等「読むこと」の領域において、全国の平均正答率を上回っている。児童が「読むこと」の学習において、文章の内容面だけでなく、表現面に着目して読むことや複数の資料を読むことで学びを広げたり、深めたりする経験ができていていると考えられる。(A4, B3一等)
- ◆ 「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」設問では、全国平均よりも上回っているものの、40%未満の正答率である。自分が書いた文を主語と述語の関係に注意しながら見直す習慣が身に付くように、他教科や日常生活の中でも主語と述語の呼応に着目する機会を設け、継続的に指導することが大切である。その際、伝えたいことを相手に正確に伝える上で、述語が適切な係り受けの関係になっていることが重要であることに児童自身が気付けるよう配慮したい。(A5)
- ◆ 「書くこと」に関する「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」設問については、15%未満の正答率であり、条件に合わせて書くことに課題が見られる。「書くこと」の指導において、伝える相手やねらい、字数等を明確にし、得た情報を関係付ける、引用する、具体例を挙げるなどの条件を設定して書く機会を設けたりするなど、児童自身が分かりやすく伝える工夫を意識して書くことができるよう留意したい。(B2二)

調査結果概況 [算数A：主として知識]
岡山市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
岡山市教育委員会	6,141	8.7 / 14	62	9.0	3.2
岡山県 (公立)	16,270	8.7 / 14	62	9.0	3.2
全国 (公立)	1,030,013	8.9 / 14	63.5	9.0	3.2

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合 (%)		
	岡山市	岡山市	岡山県 (公立)	全国 (公立)
14問	421	6.9	6.2	6.6
13問	434	7.1	7.5	8.4
12問	505	8.2	8.5	9.5
△ 11問	631	10.3	10.4	10.4
10問	693	11.3	11.0	10.9
◇ 9問	624	10.2	10.3	10.7
8問	652	10.6	10.6	10.1
7問	607	9.9	9.4	9.1
▽ 6問	486	7.9	8.1	7.8
5問	426	6.9	7.0	6.2
4問	278	4.5	4.8	4.6
3問	191	3.1	3.3	3.0
2問	108	1.8	1.7	1.6
1問	61	1.0	0.9	0.7
0問	24	0.4	0.3	0.4

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

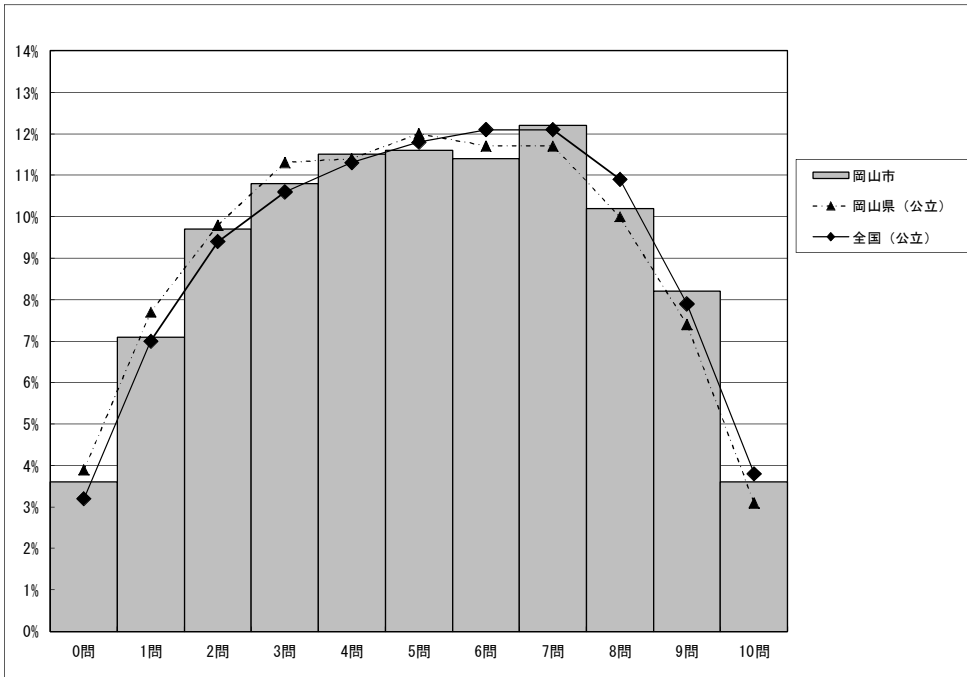
	岡山市	岡山県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	9.0問	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	6.0問	6.0問	7.0問

調査結果概況 [算数B：主として活用]
岡山市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
岡山市教育委員会	6,140	5.1 / 10	51	5.0	2.7
岡山県 (公立)	16,263	5.0 / 10	50	5.0	2.7
全国 (公立)	1,029,847	5.1 / 10	51.5	5.0	2.7

正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合 (%)		
	岡山市	岡山市	岡山県 (公立)	全国 (公立)
10問	223	3.6	3.1	3.8
9問	506	8.2	7.4	7.9
8問	629	10.2	10.0	10.9
△ 7問	752	12.2	11.7	12.1
6問	702	11.4	11.7	12.1
◇ 5問	711	11.6	12.0	11.8
4問	706	11.5	11.4	11.3
▽ 3問	662	10.8	11.3	10.6
2問	598	9.7	9.8	9.4
1問	433	7.1	7.7	7.0
0問	218	3.6	3.9	3.2

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	岡山市	岡山県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	7.0問	7.0問	7.0問
◇ 第2四分位	5.0問	5.0問	5.0問
▽ 第1四分位	3.0問	3.0問	3.0問

問題別調査結果 [算数A：主として知識]
岡山市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

【偏差値】

平成29年度 50 → 平成30年 49
(平成32年度目標値51以上)

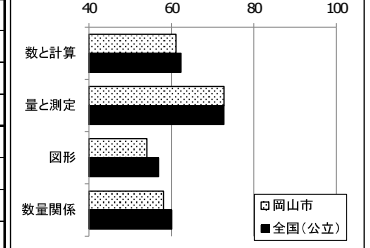
※岡山市教育振興基本計画における施策の成果指標

集計結果

対象児童数	岡山市教育委員会 6,141	全国(公立) 1,030,013
-------	-------------------	---------------------

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		市と国との正答率の差
			岡山市	全国(公立)	
全体					
学習指導要領の領域	数と計算	5	61.1	62.3	-1.2
	量と測定	4	72.7	72.7	0.0
	図形	3	54.0	56.9	-2.9
	数量関係	5	58.1	60.1	-2.0
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての技能	5	60.6	63.0	-2.4
	数量や図形についての知識・理解	9	63.3	63.8	-0.5
問題形式	選択式	10	60.5	61.8	-1.3
	短答式	4	66.7	67.8	-1.1
	記述式	0			

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		市と国との正答率の差	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての知識・理解	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山市教育委員会	全国(公立)	岡山市教育委員会		全国(公立)
1(1)	針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く	除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している	4A(3)イ 5A(3)			5B(1)ア												-5.0 ▼ +5.0 (1.7)
1(2)	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	5A(3)ア						○	○								(6.9)
1(3)	針金1mの重さを求める式を選ぶ	1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している	5A(3)ア			5B(1)ア			○	○								1.6
2	答えが12÷0.8の式で求められる問題を選ぶ	小数の除法の意味について理解している	2A(2)ア 4B(2)イ 5A(2)ア						○	○								0.6
3	3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く	十進位取り記数法で表された数の大小について理解している	2A(1)イ						○	○								0.4
4(1)	面積がそろっている㊟と㊠の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ	異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している	5B(4)ア						○	○								2.6
4(2)	㊟と㊠の二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している	5B(4)ア						○	○								(1.9)
5(1)	角㊢の角の大きさが、何度であるかを選ぶ	180°の角の大きさを理解している	4B(2)イ						○	○								(0.2)
5(2)	分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる	4B(2)イ						○									(0.5)
6	空間の中にあるものの位置を正しく書く	示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる			4C(3)				○		○							(2.5)
7(1)	円周率を求める式として正しいものを選ぶ	円周率の意味について理解している	3C(1)ウ 5C(1)エ						○	○								1.2
7(2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ	直径の長さと円周の長さの関係について理解している	3C(1)ウ 5C(1)エ			5B(1)ア			○	○								(7.4)
8	200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ	百分率を求めることができる			5B(3)				○	○								(2.0)
9	示された車両が両方当てはまるグラフを選ぶ	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる			4D(1)ア 4D(4)イ				○	○								(0.4)

無解答率 29 23

問題別調査結果 [算数B：主として活用]
岡山市教育委員会－児童

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

【偏差値】

平成29年度 50 → 平成30年 50
(平成32年度目標値51以上)

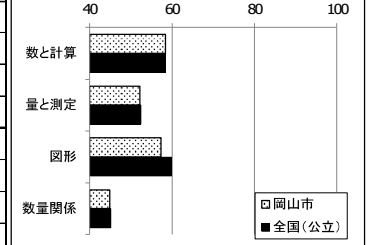
※岡山市教育振興基本計画における施策の成果指標

集計結果

対象児童数	岡山市教育委員会 6,140	全国(公立) 1,029,847
-------	-------------------	---------------------

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		市と国との正答率の差
			岡山市	全国(公立)	
全体					
学習指導要領の領域	数と計算	6	58.4	58.4	0.0
	量と測定	4	52.2	52.4	-0.2
	図形	2	57.3	59.9	-2.6
	数量関係	5	44.9	45.1	-0.2
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			0.0
	数学的な考え方	9	49.3	49.2	0.1
	数量や図形についての技能	0			0.0
	数量や図形についての知識・理解	1	66.0	71.7	-5.7
問題形式	選択式	3	52.3	54.0	-1.7
	短答式	2	65.8	66.6	-0.8
	記述式	5	44.2	43.9	0.3

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



※一つの問題が複数の区分に該当する場合は、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		市と国との正答率の差	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山市教育委員会	全国(公立)	岡山市教育委員会		全国(公立)
1(1)	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる			20(1)ア 30(1)ア 40(1)イ 50(1)イ					○	○			66.0	71.7	0.3	0.3	-5.0 ▼ +5.0 (5.7)
1(2)	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを記述できる			40(1)ア 50(1)イ 60(1)イ					○				48.6	48.2	13.6	14.4	0.4
2(1)	全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを書く	示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる	1A (2)ア 2A (2)ア		30(1)イ 30(1)イ					○				69.2	70.5	1.8	1.5	(1.3)
2(2)	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める	示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる	3A (2)イ 3A (3)イ		30(1)イ 30(1)イ					○				48.3	47.9	1.4	1.6	0.4
3(1)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる			30(1)ア					○				20.4	20.7	16.0	18.0	(0.3)
3(2)	一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる			30(1)ア 30(1)ア 40(1)イ					○	○			24.3	23.9	1.3	1.1	0.4
4(1)	「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す	示された考え方を解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる	2A(1)エ 2A(1)ウ 2A(1)ウ		40(1)ア 40(1)ア 40(1)ア					○				62.5	62.7	5.7	6.2	(0.2)
4(2)	横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く	示された考え方を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる	2A(1)ア 2A(1)ア 4A(1)イ							○				60.9	59.5	11.1	11.3	1.4
5(1)	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる			2B(1)ア					○				42.8	43.2	14.8	16.6	(0.4)
5(2)	4色を順に繰り返しつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ	折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる			1A(1)イ 2A(1)ア 2A(1)ア 4A(1)イ 5A(1)イ					○				66.6	66.5	9.0	8.3	0.1

無解答率 75 79

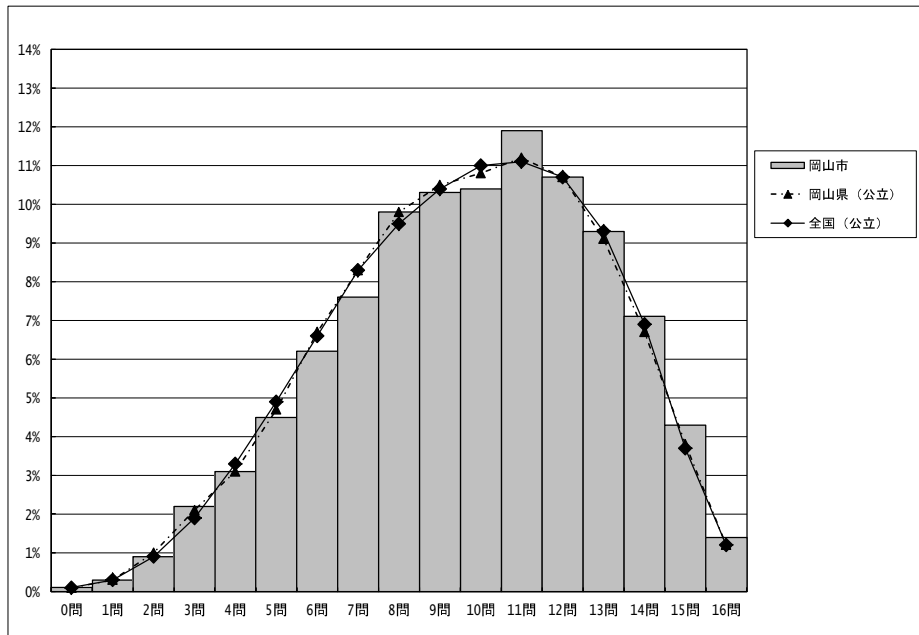
【調査結果から】

- ◆ 「数と計算」の領域において
A1(2)の設問の正答率が、全国平均より、6.9ポイント下回っている。1に当たる大きさを求める場合の数量関係を理解するために、数直線や図などを用いて、よりよい考えやより分かりやすい考えに高めあう活動が大切である。
- ◆ 「数量関係」の領域において
A7(2)の設問の正答率が、全国平均より、7.4ポイント下回っている。直径の長さや円周の長さの関係についての理解に課題がみられる。体験的な活動を通して、直径の長さや円周の長さには比例関係があるということを理解できるようにすることが大切である。
また、B3(1)の設問の正答率が20.4%と低く、無解答率は16.0%と高い。複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現することに課題があり、読み取った情報について意見を出し合う活動や資料のどの部分に着目して情報を読み取ったのかを説明し合う活動が大切である。

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
岡山市教育委員会	6,117	9.7 / 16	61	10.0	3.2
岡山県 (公立)	16,142	9.6 / 16	60	10.0	3.2
全国 (公立)	1,029,828	9.6 / 16	60.3	10.0	3.2

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合 (%)		
	岡山市	岡山市	岡山県 (公立)	全国 (公立)
16問	85	1.4	1.2	1.2
15問	261	4.3	3.8	3.7
14問	433	7.1	6.7	6.9
13問	570	9.3	9.1	9.3
△ 12問	656	10.7	10.7	10.7
◇ 11問	725	11.9	11.2	11.1
◇ 10問	637	10.4	10.8	11.0
▽ 9問	630	10.3	10.5	10.4
▽ 8問	597	9.8	9.8	9.5
7問	464	7.6	8.3	8.3
6問	382	6.2	6.7	6.6
5問	276	4.5	4.7	4.9
4問	188	3.1	3.1	3.3
3問	132	2.2	2.1	1.9
2問	55	0.9	1.0	0.9
1問	17	0.3	0.3	0.3
0問	9	0.1	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	岡山市	岡山県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	7.0問	7.0問

【調査結果から】

- ◆ 骨と骨のつなぎ目を表す言葉の正答率は、全国を2.8ポイント上回り、一定の成果が見られる。(1(3))
- ◆ 実験結果や複数の情報を分析して考察する問いについて、全国の正答率を上回っているものが多い。学習の様々な場面で自分の考えを表現したり、他者の考えを聞き、それを基に自分の考えを振り返ったり、見直したりする話し合いを重視してきた学習活動の成果と考えられる。(1(2), 2(3), 4(4))
- ◆ ろ過の適切な操作技能に関する知識の定着が全国の正答率より、2.2ポイント低く、課題として挙げられる。誤った操作によって起こり得ることを想定するなどしながら、ろ過の各操作の意味を捉えることが重要である。(4(1))
- ◆ 食塩を水に溶かしたときの全体の重さを求める問いについては、正答率が38.3%であり、全国の正答率と比べて4.4ポイント低かった。物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを理解し、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用させることに課題がある。4(3)

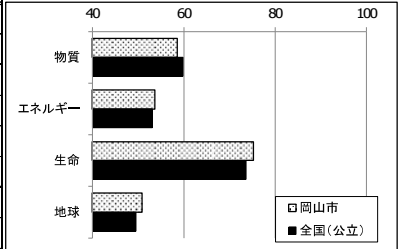
・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象児童数	岡山市教育委員会	全国(公立)
	6,117	1,029,828

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		市と国との正答率の差	
			岡山市	全国(公立)		
全体						
全体		16	61	60.3	-5.0 ▼ +5.0	
枠組み	主として「知識」に関する問題	3	79.0	78.0	1.0	
	主として「活用」に関する問題	13	57.0	56.2	0.8	
学習指導要領の区分等	A区分	物質	4	58.6	59.8	-1.2
		エネルギー	4	53.7	53.1	0.6
	B区分	生命	4	75.3	73.6	1.7
		地球	6	50.9	49.5	1.4
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	1	83.1	82.1	1.0	
	科学的な思考・表現	12	54.6	54.1	0.5	
	観察・実験の技能	1	68.9	71.1	-2.2	
	自然事象についての知識・理解	2	83.3	81.5	1.8	
問題形式	選択式	13	64.0	63.8	0.2	
	短答式	1	82.2	79.4	2.8	
	記述式	2	30.4	28.0	2.4	

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	枠組み		学習指導要領の区分等				評価の観点		問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		市と国との正答率の差
			主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	A区分 物質 エネルギー	B区分 生命 地球	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	岡山市教育委員会	全国(公立)	岡山市教育委員会	全国(公立)	
			○	○														
1(1)	野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ	安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる	○	○		4B(2)ア		○						83.1	82.1	0.0	0.0	1.0
1(2)	鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶ	調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できる	○	○		4B(1)ア		○						78.4	76.2	0.0	0.1	2.2
1(3)	腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	○	○		4B(1)イ		○		○				82.2	79.4	2.8	3.8	2.8
1(4)	人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ	人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる	○	○		4B(1)アイ		○						57.4	56.6	0.4	0.4	0.8
2(1)	流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している	○	○		5B(3)ア		○		○				84.4	83.6	0.1	0.1	0.8
2(2)	流れる水の働きによる土地の侵食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ	土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	○	○		5B(3)ア		○		○				56.4	55.4	0.4	0.3	1.0
2(3)	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を書く	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる	○	○		5B(3)ウ		○		○				22.2	20.1	1.1	1.0	2.1
2(4)	上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ	より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる	○	○		5B(3)ウ 4B(4)アイ		○		○				61.1	59.8	0.3	0.3	1.3
3(1)	風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ	乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる	○	○		4A(3)ア		○		○				64.4	63.5	0.2	0.3	0.9
3(2)	回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ	電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	○	○		4A(3)ア		○		○				47.5	47.7	0.5	0.5	(0.2)
3(3)	回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ	実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる	○	○		4A(3)ア		○		○				59.9	59.4	0.6	0.6	0.5
3(4)	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中の光電池の適切な位置や向きを選ぶ	太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる	○	○		4A(3)イ 3B(3)ア		○		○				42.8	41.9	0.6	0.6	0.9
4(1)	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ	ろ過の適切な操作方を身に付けている	○	○		5A(1)イ		○		○				68.9	71.1	0.6	0.5	(2.2)
4(2)	海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ	より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる	○	○		5A(1)ウ		○		○				88.7	89.4	0.7	0.6	(0.7)
4(3)	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる	○	○		5A(1)ウ		○		○				38.3	42.7	1.2	1.3	(4.4)
4(4)	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる	○	○		4A(2)ウ 5A(1)ウ	4B(3)イ	○		○				38.7	35.9	6.8	8.9	2.8

無解答率 10 12